

北社会ニュース 才36号

2007年9月21日

発行者：鈴木壮夫

本日、第255回北社会の演題は「正義の女神の目隠し」です。

講師の石井彦壽氏（高12回・東北大学法科大学院教授）よりこの演題をご連絡いただいた時、ぼんやりと最高裁の入り口に“正義の女神”の彫刻があったかなあぁ・・とかなり古い記憶を手繰っておりました。北社会の会員が同窓生から法曹の世界の話をお聞きできる機会は滅多にありません。どんなお話しなのだろうか、興味津々に本日を迎えました。本日のテーマではありませんが“裁判員制度”は平成21年5月までの間にスタートします。もう2年もありません。先月、私が所属しているそば商組合川越支部の理事会に出席したところ、最初の議題はこの裁判員制度でした。さいたま地方検察庁・公報担当が作成したPR誌を資料に支部長が説明、「そば屋も引き受けなければならない。百人に一人の確率で指名される」とも言われていると。私もまあ・・無関心で詳細は知りませんでした。70才以上の方は辞退することができるかと初めて知りました。刑事裁判に国民の司法参加を実現する制度、どのような展開を見せるのでしょうか。

(1) 来月以降の北社会（会場はエドモンドホテルです）

10月22日（月）午後6時

講師：針生承一氏（高13回） 建築家

演題：「際の美学－Aesthetics of interface－」

針生氏は母校100周年事業の一つ、北陵会館建設とかフルスタ宮城球場の改装工事を手懸けております。

11月19日（月）午後6時

講師：高橋長偉氏（高11回） 宮城県県議会議長・「自民党県民会議」所属

二高時代のハンドボールは東北学院大学、社会人を通じ10年連続国体出場。

体力は若い議員に負けないと胸を張り、フットワークが軽く信条は「現場主義」

12月は例年通り休会と致します。

(2) 同窓会費納入状況《3年ぶりに応援団長復活、新しい伝統を支援しましょう！》

9月6日、母校を訪問。当日は北陵祭の前日でした。男子も女子も緑色のハッピーを着用して準備に一生懸命でした。校内、擦れ違う生徒達は私達に親しみを込めた挨拶を誰一人欠かさなかった。樹木は鬱蒼となったが、新しい二高が生れつつあることを確信、幸せな気持ちになれました。同窓会費納入については6月の第33号でも納付をお願いしました。昨年の納付者は3181人。今年の予算案では共学になり“別の学校”になった。だから未払者が増加すると予想して2500人で予算を組んだ。9月14日現在、2597人と事務局から連絡あり。卒業年次毎の納付者数は多い順から10位まで。ご参考に！

(11回) 96人 (10回) 88人 (4回) 84人 (6回) 83人 (3回) 79人

(14回) 77人 (8回) 71人 (5回) 68人 (9回) 67人 (12・17回) 65人